

id名とclass名

今回は、id名、class名についても学び、CSSについてもう少し深掘りします。

id名とclass名

前回の章でこのようなCSSを書きました。

```
p {  
  color: red;  
}
```

これはpタグに対してスタイルをあててますが、これだとすべてのpタグで書かれたテキストが赤色になっていきます。

「このpタグにだけスタイルをあてたい」と言ったことは当たり前のようになります。

その時に使用されるのが、id名、class名です。

これをHTMLタグ中に書き込み、CSSで指定することによりid名または、class名を書いたHTMLのみにスタイルが適用されます。

HTMLではこのように書きます。

```
<div id="main--area">  
  <p class="text-red"></p>  
</div>
```

CSSにこのid名、class名で指定した場合はこのように書きます。

```
/* id名 */  
#main--area {  
  width: 1100px;  
  margin: 0 auto;  
}  
  
/* class名 */  
.text--red {  
  color: red;  
}
```

CSSではid名の名前の前に#をつけ、class名の前に.をつけます。

これは当たり前のように使うので必ず覚えておいてください。

id名の特徴

class名と共存可能

上記のサンプルではid名しか書きませんでしたがid名を書いたタグにはclass名も書くことができます。

id名はclass名よりもCSSが適用される優先順位が高い

id名とclass名が共存できると言いましたがもし仮にそれぞれCSSで文字の色を変えるスタイルが書かれたとしたらどちらが優先されると思いますか？

もしそうなった場合は、id名に書かれたスタイルが優先されます。

同じid名は繰り返し使えない

1つHTMLファイル内で同じid名は繰り返し使うことができません。

もし別な箇所でid名を指定する必要がある場合は別のid名をつけましょう。

class名の特徴

同じタグに複数class名を書くことができる

同じタグに複数のクラス名を書くことができます。1つ目のクラス名の後に半角スペースを入れてクラス名を書くことで複数書くことができます。

```
<p class="text-red wrapper"></p>
```

このpタグには、`text-red`と`wrapper`が適用されていることになります。

同じclass名を繰り返し使うことができる

idとは違い、class名は繰り返し使うことができるので、違う箇所にも同じclass名を書くことができます。

id名、class名の書く時の注意点

id名、class名を書く時は小文字で書いてください。

CSSは大文字、小文字を区別できますが、ブラウザは大文字、小文字を区別できません。

なので`Wrapper`と`wrapper`を用意してそれぞれスタイルを書いたとしても区別してスタイルをあてることができません。

セレクター、プロパティ、値

セレクター

CSSでHTMLタグ、id名、class名を指定しましたがその部分をセレクターと呼びます。

プロパティ

セレクターに対して何のCSS（`color`、`width`...）をあてるか下記しましたがそれをプロパティーと呼びます。

値

プロパティーでどんなスタイルをかけるか指定しました。そのスタイルをどれくらいかけるか、どのスタイルをあてるかなど指定する必要がありますが、それを値と言います。